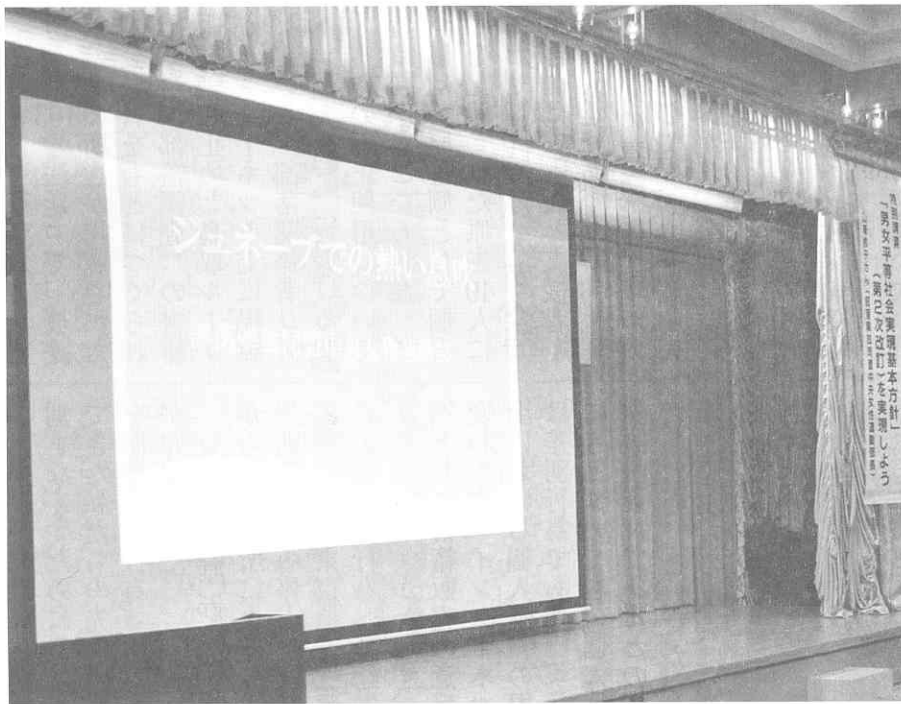


当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局
 〒640-8314
 和歌山市神前 405-3
 TEL 073-473-2301
 FAX 073-473-2302
 発行責任者
藤本哲史



国連での活動を報告する山崎鈴子・中央女性運動部長

はじめに、宮本修作・県連書記長から、第61期県連大会で提案された基調が報告された。つづいて、先の県連大会で「第73回全国大会で提案・承認・実行された「男女平等社会実現基本方針」(第2次改訂)の学習の場をもうけてほしいという提案をうけ、実施する



ことが説明された。山崎鈴子・中央女性運動部長を講師に「男女平等社会実現基本方針(第2次改訂)」を学習しよう」と題して学習会がスタートした。山崎女性運動部長は、自身の体験として「若いころから勉強の機会がほしかったのに、男性ばかりに機会が

第61期県連解放学校を7月3日、プラザホープでひらき、執行委員、県委員、支部長、各相談員はじめ約100人が学習した。

男女平等社会実現基本方針 (第2次改訂)を実現しよう

解放学校



あいさつする藤本哲史・執行委員長

第61期県連解放学校

まわる。30代前半は女性差別より部落差別の解決が先だと思っていたが、35歳ごろに女性と部落の二重差別は同時にすすめるべきと思うようになった」と心情の

変化を語った。

(講演の要約)

■部落解放同盟のとりくみ
 1955年の第10回大会ではじめて「婦人分科会」が設置され、認識としてもついていた。そして、1986年の第43回大会で「婦人が変われば部落が変わる、男性もともに変わることが女性解放にとって重要」とし、1993年第50回大会で「婦人部」から「女性部」に名称変更され、第51回大会で「部落解放と女性解放は一体のもの、性別の現状を明らかにしつつ自らの解放をなすとげる主体者としての自覚を高める」と方針を決定した。2003年7月には、NGOネットワークを中心にしたマイノリティ女性団体とともに、国連女性差別撤廃委員会にカウンターレポートを提出し、政府に「分類ごとの内訳を示すデータを含む包括的な情報」を日本政府に勧告させることができた。

■組織の目標

中央執行部の女性の割合は、5役に0人、中執に3人(15人中)で20%、目標の30%にするにはあと2人の参画が必要。『第2次改訂』に記されている12の項目の進捗状況を中央男女平等社会推進本部で把握することで、発展・継承させていく。

頑健

本格的な夏だ。さて、今から55年前の8月。ドイツのベルリンの真ん中に東ドイツによって突然壁がつけられ、街が東西に分断された。「ベルリンの壁」である。以来「壁」が崩壊するまでの40年近くの間、東側から自由を求めた多くの市民が、壁を越えようとし国境警備隊や秘密警察によって殺害され逮捕された▼今年の1月、20世紀の世界に影響を与えたひとりと評価された英国のロック歌手デヴィッド・ボウイが亡くなったが、その葬儀に、ドイツ政府から公式書簡(追悼文)が届けられた▼さて「壁」が崩壊する2年前のことだが、デヴィッド・ボウイが壁の西側の広場で、ほとんどのスピーカを壁に向けてロックコンサートをひらいた。その時、壁の東側では、国境警備隊や秘密警察に怯えながらも数千人の若者が集まっていた。コンサートが最高潮に達した時、一人の若者が「ここから出してくれ」と叫び、警備隊が一斉に若者たちに襲い掛かった。この日ことがきっかけになり、市民(若者)が立ち上がり、壁の崩壊、そして「ドイツ統一」へとむかっただといわれている▼世界を二分した東西冷戦時代の話だが、多くの若者は知らないのだろうか?そればかりか70年あまり前、日本がアメリカと戦争したことも、▼今年もきました暑い7年目の夏が。